9　　の 　文法　助動詞①　る・らる

十二支の鳥獣たち（十二類）が歌合を開いた際、としてを招いた。判者にされなかった狸は怒り、十二類にをしかけるが、狸はその戦に敗れてしまった。

狸、戦にさへ負けて、二度のを㋐せむかたなくこそ思ひけれ。いかにもしてこのをすすがむと案じけるが、元の姿にてはなほもかなひがたくおぼえて、「鬼の形になりて彼らをたぶらかし、心迷ひせむ時、十二類をみな取り食ひてむ」と思ひて、黒塚にこもり居て思ひのままに鬼になりぬ。しおほせたる心地して、十二類、の所へおもむきけるほどに、道にて犬にⓐえられて、既に危なくおぼえければ、くして逃げにけり。心憂さ申すばかりなし。「①犬にだに見知られぬ。まして、などはさこそすさまじからむずらめ」とⓑ思ひやられて、②このくはだても㋑むなしくとどまりぬ。

語注

黒塚＝ここでは、鬼に化けるために都合のよい場所のことを指す。

【原文】

狸、戦にさへ負けて、二度のをせむかたなくこそ思ひけれ。いかにもしてこのをすすがむと案じけるが、元の姿にてはなほもかなひがたくおぼえて、「鬼の形になりて彼らをたぶらかし、心迷ひせむ時、十二類をみな取り食ひてむ」と思ひて、黒塚にこもり居て思ひのままに鬼になりぬ。しおほせたる心地して、十二類、の所へおもむきけるほどに、道にて犬にえられて、既に危なくおぼえければ、くして逃げにけり。心憂さ申すばかりなし。「犬にだに見知られぬ。まして、などはさこそすさまじからむずらめ」と思ひやられて、このくはだてもむなしくとどまりぬ。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

戦に負けた狸は、〔　　　〕となって、十二類をみな〔　　　〕ってしまおうと思ったが、途中で〔　　　〕に気づかれ、このままでは十二類の〔　　　〕や〔　　　〕にも気づかれるだろうと考え、この企てをやめることにした。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。（終止形でよい。）〈3点×2〉

㋐〔　　　　　〕　㋑〔　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ・ⓑを品詞分解し、文法的に説明せよ。〈3点×2〉

ⓐ　吠　　　え　　　ら　　　れ

ⓑ　思　　　ひ　　　や　　　ら　　　れ

問四　チェック問題　助動詞①　る・らる

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| らる | る |  |
|  |  | 未然形 |
|  |  | 連用形 |
|  |  | 終止形 |
|  |  | 連体形 |
|  |  | 已然形 |
|  |  | 命令形 |
|  |  | 接続 |

⑴　次の活用表を完成させよ。〈1点×2〉

⑵　次の傍線部の助動詞について、文法的意味を選べ。〈2点×5〉

1　（中納言が）の前を過ぎられけるを…（十訓抄）

2　（私たちに）使はれむとて、つきて来る童あり。（土佐日記）

3　（作者は）人知れずうち泣かれぬ。（更級日記）

4　池めいてくぼまり、水漬ける所あり。（土佐日記）

5　死なむと思ふも、え死なれねば、…　（今昔物語集）

ア　受身　　イ　自発　　ウ　可能　　エ　尊敬　　オ　存続

1〔　　　〕　2〔　　　〕　3〔　　　〕

4〔　　　〕　5〔　　　〕

問五　傍線部①を現代語訳せよ。〈8点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②とあるが、具体的にはどのような「くはだて」であるのか。解答欄に合うように三十字以内で答えよ。〈8点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕という「くはだて」。

問七　本文の内容に合致するものを一つ選べ。〈10点〉

ア　狸は十二類になんとかして復讐したいと思ったが、狸の姿のままでは思いをなしとげることができないと思った。

イ　十二類に戦を挑みかけようと、意気揚々と狸は出かけていったが、途中で自分が鬼に変わったことを忘れてしまった。

ウ　狸は犬に追いかけられて散々な目に遭ったが、犬をなんとかしてこらしめてやろうと思って、鬼に変わることにした。

エ　自分を邪険に扱った辰や寅は、自分が鬼と化したことを知ったならば、きっとひれ伏して謝るに違いない、と狸は思った。

〔　　　〕

【解答】

問一　鬼　食　犬　辰　寅

問二　㋐＝どうしようもない　㋑＝無駄である〈3点×2〉

問三　ⓐ＝吠え（ヤ行下二段活用動詞「吠ゆ」未然形）／られ（受身の助動詞「らる」連用形）

ⓑ＝思ひやら（ラ行四段活用動詞「思ひやる」未然形）／れ（自発の助動詞「る」連用形）〈3点×2〉

問四　⑴〈1点×2〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| らる | る |  |
| られ | れ | 未然形 |
| られ | れ | 連用形 |
| らる | る | 終止形 |
| らるる | るる | 連体形 |
| らるれ | るれ | 已然形 |
| られよ | れよ | 命令形 |
| 右以外の未然形 | 四段・ナ変・ラ変の未然形 | 接続 |

⑵　1＝エ　2＝ア　3＝イ　4＝オ　5＝ウ〈2点×5〉

問五　犬にまでも悟られた。〈8点〉

問六　鬼に姿を変え、十二類がうろたえるすきに、全員を食べてしまおう

　　（という「くはだて」。）（30字）〈8点〉

問七　ア〈10点〉

【現代語訳】

狸は、合戦にまでも負けて、二度の恥辱をどうしようもなく思った。どのようにでもしてこの恥をすすごうと案じたが、元の姿ではやはり望みどおりにすることが難しく思われて、「鬼の形になって彼らをだまし、（十二類が）驚くような時に、十二類をみな取って食ってしまおう」と思って、黒塚にじっとこもって（恨む）気持ちにまかせて、鬼になった。うまくやってやったという気持ちがして、十二類が、集まっている所へ（狸が）赴いた時に、道で犬に吠えられて、全く危なく思われたので、かろうじて逃げてしまった。情けなさは申し上げるまでもない。「犬にまでも悟られた。まして、竜や、虎などはさぞかしひどいことになるだろう」と思いやられて、この企ても無駄であると諦めた。

【補充問題】

問１　「鬼の形になりて」（２行目）とあるが、狸はなぜ鬼の姿になったのか。最も適当なものを選べ。

ア　十二類が最も恐れるものは鬼であるということを聞いていたから。

イ　鬼に変われば自分が恥をかいたということをうまく隠せるから。

ウ　狸の姿のままでは十二類への復讐がうまくいかないと思ったから。

エ　狸である自分が鬼に変わることができることを誰も知らないから。

問２　「心憂さ申すばかりなし」（５行目）とあるが、この時の狸の心情を説明したものとして、最も適当なものを選べ。

ア　鬼に変わったことをすぐに犬に見破られて、つらく感じている。

イ　大嫌いな犬に追いかけられて、いたたまれなくなっている。

ウ　犬に吠えられて、誰も鬼を恐れないのではないかと心配になっている。

エ　辰や寅が強く、鬼になっても十二類には勝てないとがっかりしている。

【補充問題解答】

問１　ウ

問２　ア